

### 三、反省と今後の課題

(2) ①(五) 本時のねらい(本時は十時間目)  
ペーパーサート劇を見ながら動物の動作をしたり、「のせて」、「しゅつぱつ」等のことばが言えるようになる。  
ペーパーサート劇にててくる動物の

(3) 動きに興味をもち、教師の動きをまねて簡単な動作模倣ができるようになる。  
交代してのりもの遊びができるよ

(4) 教師といっしょに順番を待つたりお客や運転手等の役割がわかるよ  
うにする。  
自ら「しんかんせん」に乗つてのりもの遊びができるようになる。

(六) 指導過程(表3参照)

表2 主な指導内容

グループ	ペーパーサート劇	のりもの遊び	トンネル作り
K・U O・K N・Y E・S (H)	<ul style="list-style-type: none"> <li>話の筋のある簡単なペーパーサート劇を見て、その内容のあらましがわかり、簡単なセリフが言える。</li> <li>鳴き声と対応させて、動物ペーパーサートを選ぶことができる。</li> <li>簡単な音楽の拍に合わせて、手をたたいたり、足を動かすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>役割や順番交代の意味がわかり、友だちといっしょに遊ぶことができる。</li> <li>のりものに乗るときは、切符が必要なことがわかる。</li> <li>遊びで使用する遊具や道具を、友だちといっしょに準備したり、あとかたづけができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障子紙をちぎって、箱にはりつけ、箱と箱をつなぎ合わせることができる。</li> <li>トンネルを作ることがわかり、箱に色紙を続けてはることができる。</li> </ul>
S・N S・K (M)	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌に合わせて、身近な動物の模倣表現ができる。</li> <li>話の筋のある簡単なペーパーサート劇を見ることを喜び、教師といっしょに簡単なセリフが言える。</li> <li>身近な動物のペーパーサートを見て、その名前が言える。</li> <li>教師を見ながら歌に合わせて、手足をリズミカルに動かすことができる。</li> <li>身近な動物の模倣表現ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>役割や順番・交代の意味がわかり、わがままを言わないで遊ぶことができる。</li> <li>のりものに乗るときは、切符が必要なことがわかる。</li> <li>遊びで使用する遊具や道具を指示された場所に準備したり、あとかたづけができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障子紙をちぎって箱にはりつけ、箱と箱をつなぎ合わせることができる。</li> <li>トンネルを作ることがわかり、箱に色紙を続けてはることができる。</li> </ul>
K・T E・R O・H (L)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペーパーサート劇にててくる身近な動物やその動きなどを興味をもって見ることができる。</li> <li>教師の動きを見たり、手をかりて歌に合わせて、手をたたいたり、足を動かすことができる。</li> <li>教師や友だちの動きを見て、身近な動物の模倣ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗降口がわかりひとりで、しんかんせんの乗り降りができる。</li> <li>身振りや声を出して、しんかんせんに乗りたいことを要求することができる。</li> <li>教師といっしょに遊具などの準備やあとかたづけができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トンネルをつくる材料や、道具を教師といっしょに所定の場所に運ぶことができる。(E・R)</li> <li>はけを使って紙にのりつけすることができる。(O・H)</li> <li>のりづけした紙を指示された場所へはることができる。(K・T)</li> </ul>

(一) 重度・重複障害児の場合、児童と一緒に即した学習活動を設定するとともに、教材教具を工夫し、くりかえし好奇心をさそい、教師の適切な援助のもとに課題意識を育て、活動の積み重ねによって次第に自発的参加がみられるようになった。

(二) 子どもに親しみやすいペーパーサートを使った簡単な劇をくりかえし観賞させ、そのなかで児童になじみやすく予想されることばや動作を聞かせたり模倣させたりした結果、次の乗り物遊びの中で自然に自発語として表出されたり動作が表現されたりするようになった。

(三) 小学部の児童の場合、自発的な学習活動を大事にし、遊びや学習が発展的にすすめられるよう絶えず留意し、児童の活動への欲求を洞察しながら弾力的に計画をすすめ、学習活動をうながし強化するための教師の適切な援助やかかわり方に留意して指導することが大切である。

(四) 生活単元学習では、主題にせまるための学習活動の組織が肝要であり立案案に際しては十分教師の創意を反映させ、一人一人に応じた学習活動を準備し、共通の課題意識のもとにすべての子どもが活動に取り組み、課題達成の成就感が得られるような適切な援助活動が必要である。